夕刊 磐城新聞
七月六日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八・五五六五番
發行所 磐城新聞合資會社

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北の風曇時々雨模様
明日は南の風時々曇

「朝鮮の春」を讀む

丘一生

その歌には派手な華やかさはないが、譬へば群落から離れてひとり咲く曠野の菫の如き地味なひそやかさがある。その代りこの持ち味から一歩退ると、地味は無感動となり、ひそやかさは獨りよがりになるといふ危險性をもつ。唯個性を生かして着實に歌ふところに君の生命があると思ふ。最近の作にこれが益々はつきりしてきたことはうれしい

うち續く垣連翹の黄に匂ひ明かるかりけり停車場の邊

向つ山若葉はすでに整ひて空紺青の五月晴れなり

この二首の整つた詠法は、少し固まり過ぎたと思はれる程の手堅さを見せてゐる

連翹の芝咲く垣に干するのゝすでに春なり水色の裳

鮮人召使ひが掃きし庭の朝あけを櫻ちらほら散り初めたり

屋根死苦むしふれど壁に柱に色とりどりに映えし文廟

この三首、朝鮮語を交へた歌が聊かとつてつけた樣な所が多い中から比較的無難なものとして拔く。一般に朝鮮語を入れた歌がわざとらしいのは敢て耳なれせぬばかりではないと思ふ。最後の一首は何となくはつきりしない樣だ。三句四句に推敲の餘地があると思ふが如何。

風呂入りの客は歸りし後風呂に夜更けてゐれはねむたくなりぬ

「夜更けてあれば」は說明になり過ぎてゐる樣だし、「ねむたくなりぬ」も少し甘ね過ぎてゐる感がする。この四五句は何とかなりそうな作だ。

立ちては坐り坐りては立ちぬかづける祭官の拜禮古風めきたる

立ちては坐り坐りては立ちぬかづく祭官の拜禮が何故古風めいてゐるかは不明だ自分だけが感心してもさつぱりそれが感じられないと思ふのは僕だけかしら。蓋し最初に言つた「一歩退ると」の境地に陷することを恐る。

渡し舟來るを待つと水際の砂のすがしく手にとりて見る

打ちつづくアカシヤ並木の五月晴れ若葉が落す影の細かさ

第一首に於ける新鮮さと第二首の觀察の鋭さをとる。「砂のすがしく手にとりて見る」のフレッシユな感覺と「若葉が落す影の細かさ」の細かな描寫こそ君の活くべき境地だ。幸に自愛と精進とを祈る。

7月6日
△圓山應擧歿（寬政七）△華族に五爵の制を立つ（明治一七）△蘆溝橋事件勃發（昭和十二）

戰線雜詠

在中支　宇佐美定晴

○小夜更けて室むすままにねもやれず　庭に出で見る月のあかりを、

○夜明けて雀の聲に目をさます　まぶたこすりつ床をはなるも

○傷つきし友の動を語るにも　先たつものは涙なりけり

○しのゝめの空より明る平和郷　唐國人の子等とたはむる

○天かける大和島根の武士よ　汝のいさほし永遠につたへん

○ひげ面の我が身になつく小供等に　キャラメルあたへともに喜ぶ

○佐渡おけさ友の踊は我笑ひ　思ひを晴らす陣中の宴

神經衰弱（二）

哲名山人

神經衰弱は精神の過勞からくると云はれてゐるが、多くである、或る商人か借金苦に惱んで居て、居ても立つてもゐられず、遂にこの病にかゝつて寢られぬ夜は續いた、處がある時偶然に金儲けをしたら、其の調子にけろりと治つてしまつたからである。

これは何故であらうかと云ふに、その借金を返したといふ事實が、苦から免れたといふ觀念を無意識的に救つてやつたからである。何となれば借金は一つに於ては禁壓された恐怖、生みも對する惱み、他方に於いては自尊心、義務に對する要求それがこの兩者の間の闘爭が急速に終速せしめたのと同じ譯である。

神經衰弱とヒステリーとはその錯亂の究極の原因に於ける差異によるのではなく、患者の體質や氣質の相違に依つて、相互にその現れ方を異にする所の、二つの微候の綜合的系統である。それは同一 微生物病弱體が一方の人には何等の徴候をも惹起せず、然るに他方の人を殺す者があると云ふのと同じ譯である。

呈原小名濱水道技師

味雲　小野務平

宏林殊技德聲哉
到處成勳快若何
欲爲市城開水道
生民二萬所恩多

その日〳〵

○

沙羅いけてむしづまる朧かな　知十

講談　隱密小天狗（おんみつこてんぐ）（66）

中川雨之氏作　近藤紫氏畫

十手と脇差

「だが、親方の十手は隨分重寶なんですね。時には、女を脈がらせる脅し道具にもなるんでせう」

と皮肉にいつたその聲は少しふるへた。

「オヤツ、この野郎」

足を留めた龍吉が、鋭い（？）て睨みつけた。

「やい、惣五郎、てめえ乙なことを言やがるな、もう一遍言つてみろ、勘辨しねえぞ」

龍吉は凄い權幕だつた。今にも十手が飛んで來さうだた。

「おいら、跡形の無えこたあ言はねえ、妹のお蝶の前で、その十手を振廻した覺えがあるでせうね親方」

急所を衝かれて、いかに强情でも、覺えは無い、と云ひ切ることの出來ない龍吉だつた。

「お蝶の奴、出鱈目を喋べりやがつたな」

「彼奴が喋べらなくつても天眼樣も見徹しだ」

釘付にされたやうで、惣五郎はもう身動きをもしない。

「何といい鼻息だ、今夜はまる……人間が違つて居る氣でも違つたのぢやないか」

と、龍吉は心の中。サッパリ合點が行かない、が、斯うなると、やつばり奥の手は十手だ、御用風を吹かすのが一ばん効驗があると考へた。

「おのれの方にも談がある。茲は途中だ、一緒に來い」

いきなり惣五郎の手を捉へた。

そのはずみに、手先が脇差に觸れた。

隱すやうにしてゐたので、いまゝでそれを知らかなつた。

「オヤ、てめえ、刀を差してゐるな」

「大きにお世話だ」

一ぱいの力で振り離されて、よろよろと、よろけたが、早くも龍吉の手に十手が光つた。

惣五郎、後退りして、路傍の柳の幹を小楯に取つた

「へん、又た十手か、御用の安賣が聞いて呆れらあ」

「うぬつ、後楯があるので俄に强くなりやがつたな、正雪が何でえ、丸橋忠彌が何でえ。何奴も此奴も叩けば尻尾の出さうなやつばかりだ、その怪しい浪人に飼はれてゐる手前は狗だ、調べる筋があるから、一緒に來い。手向ひするとお繩を藏かせるぞ」

しかし、何處までも龍吉は相手を見縊つて居た。一瞬の後、目の前に白刄が飛んで來るなぞとは、夢にも想つて居なかつた。

「洒落臭え、お繩の代り、八對ー是でも頂け」

きらりと、白刄が光つた。まさか、脇差を引つこ拔くまでの惣五郎だとは考へもしなかつたので、十手を前へ突き出した構へのまゝ龍吉はぢりぢり後退りした。一と呼吸の遑さへ與れず惣五郎渾身の勇氣を、振りかぶつた白刄に籠めて、猛然と躍りかゝつた。

「此奴さへ殺つてしまへばおいら死んだつて、なあに構ふものか」

彼は必死の覺悟だつた。

「やい、危ねえ、何をしやがるんだ、惣五郎手前亂心しやがつたか」

「狼でも喰え、因業野郎を片付けちまふんた、それが人助けだ」

惣五郎は、逃げ廻る龍吉を、追め詰引つ詰め、盲滅法劍を振り廻す、實に縱橫無盡であつた。

江戸つ兒だた先祖で勝て度胸で行け、親父藤兵衛の聲が、何所かで力づけてくれるやうだ。

「待て、危ねえ」

廣告

國產 トウランプ
明い電球は 銃後の護り
西東會社の新商品
齒磨 齒刷子 石鹼
連鎖店にあり

酒とマヅイ
おでんの榮ちやん
平市田町花ノ里
電話三三番

高久病院
院長 高久忠
電話五一三番

玉屋ノ眼鏡

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
醬造元 山崎合名會社
磐城郡平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

新車のお知らせ
斷然!!! 乘心地良い!!!
三七年型フォード
入車いたしました。
是非！御試乘の程を！
市內四丁目
スヾキタクシー
電二一七番

故障の起らぬ
原口のラヂオ
ラジオで聽こう。時局ニース
ラヂオは是非——
專門店……へ
原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話（呼出） 166

或は下痢或は胃腸が害われたりして二日四日と便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキキメの早い
靈効散 胃腸藥 を御試し下さい
胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方劑調劑所 阿康藥局
電話四四番
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
振替口座東京三〇〇六五番
御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

上原家政婦會
會主產婆 上原通子
平市紺屋町一一
電話二二番
產婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

男女學生夏服……大特賣
高島屋の洋服
新柄 背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

初夏の—小瀧は招く
一日の清遊には……どうぞ小瀧鑛泉へ！
西洋いちごが出盛つてゐます
猿の子が生れました とても可愛いです
割烹 鐵道指定旅館
小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

重田眼科
眼科一般 眼鏡檢定
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

スピート時代に パーマネント
健康美時代に潑剌と オゾン美顏術
婦人御洋服に パーマネント
値段 全部四圓 外三圓
水野化粧院
平市驛前
電話 營業六七八 自宅五二五

魚は原魚
平製氷會社
ヤマル凍魚
タヒ 甘鯛 エビ マナ鰹 白魚 帆立貝柱 冷カヅノコ ウニ貝燒
平市四丁目 ヤマ印 魚問屋 電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

晝夜 診療
外科一般 內臟外科 レントゲン科 泌尿器科
北川外科
[血液檢査毎日] イツデモ入院デキマス。
平市新川町［電四六四］
醫學博士 北川芳夫
技師 三浦常保

暑中御伺
平みやげ 米やの最中
暑中御見舞 御中元各種折詰
高級最中 米や最中專門店

聖戰茲に滿一週年
七月七日を記念せよ

想ひ起す昨年七月七日の深更、北京西郊盧溝橋畔の靜寂を破つた一發の銃聲が日支全面戰への烽火となり我が民族大陸發展のスタートラインをなして茲に滿一年疾風枯葉を捲く皇軍の威力は今や既に北、中、南支の十二省を席捲し更に○○○戰線の進行が戰火を○○、○○の二省に及ぼしめんとし彼蔣介石の力は昨今全く原生動物的の餘喘を保つにあるに過ぎ無い所謂アミーバー化しつゝあるも彼らの勢力增殖を完全に截斷し、東洋永遠の平和を確立するには銃後とも尚ほ一段の緊迫した心構へが必要とする。七月七日を深く心に刻み込まうではないか

默禱、一品獻納
あすの事變記念日に
＝平市の催し

あす聖戰一周年記念日―市ではこの日午前十一時から務平町分の各種團体及び市民は縣社子鍬倉神社に、磐平窪方部では第四小學校に整列、戰歿將兵の追悼並に出征勇士の武運長久を祈願更にサイレン鐘等によつて正午を期して一分間默禱、同樣追悼、祈願の眞心を捧げる、この外

一、一菜主義實行　二、一戸一品以上獻納　三、各種勤勞奉仕

の三つを實行するがこのうち一菜主義は旅館、料理店食堂にも懇談的に呼びかけて趣旨の徹底をはかり、一戸一品獻納は午後一時から郷軍、青年團、婦人團体が總出動で夫々受持區域の家庭を訪問取纏めることになつてゐる

獻納品を取纏めて當物商に賣却した代金に一菜主義の實行により餘剩を生じた現金を加へ獻納するものは直接市役所庶務課にその手續きをとられたいと尚獻納品の量及び價格の大小は一切問はず獻納の爲に物品の購入等はしないやうに注意されたいと

後援會では
遺家族慰問

平市軍事後援會では當日午後一時から數班に分れて出征軍人戰病歿者の遺家族慰問を行ふ

前線の温情隊長
部下の近状を報す
吉田健三君家族の感激

市內二丁目尼子自動車部吉田健三君は過般來某方面の任務に就き今後益々第一線に乗り出す事となつた旨此程所屬森川隊長から

―同君は非常に眞面目に而も元氣旺盛に軍務に服して居ります、去る○○日全員無事目的地に上陸致しましたから何卒御安心下さい、今後愈よ一致協力重任に向つて邁進し聖恩の萬一に應へ奉る覺悟であります（略）同君が職地に在りまして留守宅の心配事に就きましては及ばず乍ら全力を盡して善處する心算であります（略）時局重大且つ向暑の砌り皆々樣の御自愛と銃後の强化をお祈り致します

云々の通知があり、前線銃後の連絡に就き部下を慈しむ隊長の心遣りは實父直之助氏はしめ少からず家族を感激せしめてゐる

。。。。工場協會總會　工場協會

平支部並に平汽罐協會では九日午後三時から平署會議室に臨時總會を開き八卷氏退職に伴ふ本田新署長の支部長及び協會顧問推戴の件を附議

尚總動員貯蓄組合の設置奬勵其他も協議する

時局向きに計畫
廣告研究會と七夕祭

既に第二段階に入つた刻下の非常時局に假令近年減切り賣り出した市の代表的年中行事とは謂へ前後の勞力と失費を少からぬ七夕祭りの計畫もどうかと云ふ見解も一部に行はれるであらうか、皇國の爲に一身一家を顧みず働く前線將兵の辛苦を忘れぬ程度のものであり且は出物によつて愛國意識を昂揚するは時局柄また極めて有意義であるとの見地から平廣告研究會では斯く商工會其他關係者と連絡の上適當に協議を進むる豫定であると

病を推して
吉田醫師出發

市內紺屋町醫師吉田久雄氏は歩行も困難な病体ながら「任務重し」と今六日早朝某方面に勇躍出發附近民を感激せしめた

記念スタンプ押捺

平局では明七日の記念日に當り料金を完納したる書狀並に通信葉書及往復葉書にして裏面の全部又は大部分に繪畫、寫眞、圖印影等を現出したるものの引受けに對し記念日附印を使用するが但し其の希望を以て郵便局の窓口に差出たるものに限ると、尚ほ其後三日間政府發行の郵便葉書並に記念日の目的を以て貼したる二錢以上の郵便切手に對し消印の需めに應ずると

ソ聯の橫顔素描（十一）
故吉田宗雄氏（舊稿）

―車內の溫度に華氏六七十度暑からず寒からずで濕度の調節なかなか上手車外は氷點下二十度內外の由、風全然無き爲め殆ど寒冷を感ぜず

食堂

ロシア通となるには一、胡瓜漬　二、紅茶　三、黑麵麭　四、スープ四つの味に親しみを持たねばならぬ由

胡瓜漬けとは唯一の野菜もので月桂樹の葉其の香り良き草木の葉と胡瓜とを鹽漬けにしたものである。初めて口にすればプーンと一寸匂が鼻につくけれども二三度食へば日本人の口には合ひさうな漬物だ。

紅茶は大コップに一度に一杯は飲む

黑パンは酸つかく麵麭が腐つて酸くなつた樣な味だ

スープとは肉類と野菜類をグダ〳〵煮込んだもので脂がキラ〳〵浮んで至極しつこいもの

大体に於て露西亞料理はしつこい、バタは麵麭につけるものに非ず食ふもの也の流儀にて山の樣に盛りが良い、料理の一人前は日本人の三人前に相當する、其れは彼らは彼の偉大なる体格にムシヤ〳〵と肉の固をし平げる、吾等一隊は七人で何時も四人前を注文する、萬事が上品を欠き野性其の儘を現はしてゐる、所謂之れが露西亞式か

二月五日クラスノヤルスクにて。亂れ書きに付可然御判讀下さい。

×

四月一日。磐城地方は最早や花見頃、折角四季折々の御樂み可然候。昨日一週間の會議休暇を利用し製紙工場視察旁々一行レニングラードに來ました、莫斯科を三十日の夜十一時に出發して翌日の午前十一時半着（途中は樹海らすの露西亞式にして坦々たる野原のみ）直ト歐巴ホテルに投宿ネフスキー町の中央に在り間數四百あり、露西亞一の旅館だそうです。ネフスキー町は東京なら銀座、歐風に作れる町にして立派なものに候。モスコーを京都としレニングラードを東京と思へば間違ひ無し、萬國歐風に似せたものぞか

此町も革命後改名されて今日では十月二十五日町と云ひます、之れ革命の成就せる日なる由。

今夜一時よりアレキサンダー三世の立てたる繪畫博物館に行き、休館なりしが日本人とて特に便宜を與へられ館內一巡、四時半歸り後はマレンスキー劇場に行く。

〜◇〜

學校々庭を使つて
体位の向上を圖れ
平市で積極的に開放

銃後民の体位向上については目下各方面で夫々施設を講じてゐるが平市でも其筋からの通牒に基きその一策として市內學校グラウンドを開放、野球其他スポーツを奬勵することゝなり八日午前十時から學校長等を市會議事堂に招いて打合はせる

學校休日、放課後等支障ない場合は適當とされ使用する場合は代表者が學校長の承認を受けられたいと

篠山第一校長轉居

篠山校長は從來の

平都市計畫街路決定
各方面へ放射する大小十五線
今明兩年度中に完成

〜築かるる〜
平面美

第七回都市計畫福島地方委員會は昨四日午後一時半から福島市役所會議室において開かれ、會長君島知事以下、委員坂井縣經濟部長、柳警察兩部長、伊藤福島高商校長、有村第二師團參謀長、三島內務省土木局仙台出張所長、仙台遞信局長代理龍田技師、上野書記官外福島市關係、平市から青沼市長、野崎、萩原兩市議、遠沼縣委員外委員等計二十五名外に幹事一書記數名出席君島知事議長となつて協議の結果全部原案通り決定午後三時半散會した、福島市と共に決定された平都市計劃街路決定次の如く事業年度割は今年度四割九分、明年度五割一分である

△田町谷川前△十五町目

御廐△十五丁目鹽（以上幅員十五米）△小太郎小島△小太郎正內町△三町目紺屋町△三町目鎌田（八米）△田町下平窪（八米乃至十五米）△田町幕の內（同）△大工町上荒川（同）△禰宜町下白土（同）△搦經小路明治町（八米）△長橋町小島△大館九品寺前（同）△長橋町下好間（同）各線

復舊をいそぐ國鐵

洪水後なほ連日の豪雨で相當な打擊を蒙つて居り今國鐵被害復舊作業は豪雨後の維持管理方法が遅造が行の努力にも進捗せず當惑してゐるがこれに關し當局線上りは岩間―大槻間に數ヶ所の不通個所があるので依然磐越東線を迂回して居る始末であるがこれが全通は八日頃と見られてゐたがどうしても十日過ぎになるであらうと云はれてゐる

被害水田に代用作
天候恢復後を警戒

洪水によつて郡下の水田は

浸水田は黃斑萎縮病や稻熱病發生の虞れがあるからこれに對しては石灰ボルドー液の用意が必要だ、速に泥砂を除いて清い水を入れなければならないしこの分で天候が恢復せねば除草は禁物であると嚴戒を望んでゐる、尚鮫川沿岸をはじめ被害程度の大きい水田には大豆、小豆、蕎麥等の代用作栽培、又畑は代用作として人參、白瓜等が兼々播きつけられたやう

材木町から此程市內杉平二（舊城址大櫓下）へ移轉してゐる

銃後美談募集
仙台放送局で

平市では仙台放送局が募集してゐる『放送資料鄕土美談』を目下市民に呼びかけ事變に因んだ物語新聞談等で時、場所人等を詳細に字數は一千字內外、締切今月十五日、宛名は仙台放送局放送係

金成中尉母堂寄附

市內研町　金成よしさんは戰死した長男龜太郎中尉供養のため事變一周年に當り左の如く寄附

郷軍平聯合會、同第一分會各三十圓、國婦第一分會、研古青年團各二十五圓、隣保館建設費四十圓　內鄕礦業學校三十圓

好間の水害
三萬圓を突破

郡下水田の洪水被害は目下郡農會で取纏め中で近く大体の見當がつくものと見られてゐるが內好間村の被害は水田十町歩（見積一萬一千二百圓）畑二十一町（一萬一千八百圓）其他主なものは△水路三ヶ所（九百五十圓）△堤塘三ヶ所（五百三十圓）△橋梁四ヶ所（五千五百圓）△作業所一棟破壞（千七百圓）この合計三萬圓を突破してゐる

當時愛息を平に
身は天職に精進
勇退の深井東京四中校長

今から約三昔前、明治四十年前後頃。今は亡き植竹源太郎校長の家から湯本の磐中へ通つて居た深井晉と呼ぶ何處か鈍感な石城の子とは些か行き方を異にした痛快な生徒があつた、大柄な体軀、短褐高履、友達間一寸異彩を放つた件の生徒こそ我國中等敎育界に對する國文學界に鳴らした東京府立第四中學校長深井鑑一郎氏の男晉君で身は天職、中等普通敎育の天職に殉ずる爲め、愛中大に期するところあつて目に中へ入れても疼くない其の伜を高等師範時代の親友たる植竹氏に賴んだものだ　この深井校長に對し四日依願退職が發令された。氏が四十七年間の永きに亘り同一中學に奉職、敎育界に盡瘁した多大の功勞を認められ同日付で中學校長としては最初である文相の敎育功勞者表彰狀を授與された

氏は明治廿一年十一月福島縣立尋常師範學校敎諭に任ぜられ同廿四年に府立四中の前身である私立共立中學敎諭に轉任、卅一年同校長として今日に至つたもので同一中學校に四十七年も奉職、四十年も校長を勤めたことも新記錄である

晉氏は明治四十一年第八回の卒業、梅原利三郎、國府田直良、諸橋嘉吉の諸氏は何れもその同窓生で本記者によつて一しきり當時の事が語り草になるであらう

辭令

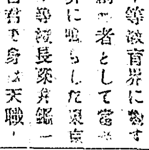
熊澤與一
煙草耕作敎師を囑託す
平出張所區域擔當

入用

一、少年工場員
小學卒業程度市內居住のもの、來談あれ
磐城新聞社

七曜

（小名濱測候所發表）
滿潮　午前　午後
干潮　午前　午後　六、五五



木曜　舊六月十日　庚子　先負　七赤　破　奎宿

▲一白　一方に利得ありても他方に損失する如き日▲二黑　力限りの奮闘を試み充分なる成績を見る日▲三碧　屈することなく奮發すれば次第にのび行く日▲四綠　節をまげず誠意の有らん限りを盡して大吉▲五黃　利よくな輕んじ名聞を重んず堅實たるが吉し▲六白　昨日に引き替へ退歩あり希望計畫控ゆべし▲七赤　逆境に迷はさる、日常業を靜かに守るべし▲八白　行ふさがりも自ら開け從來に物事の運ばる、日▲九紫　勞苦を厭はずしばらくの辛抱を遂ぐれば後吉

廣告

簡易ノ金融
磐城無盡
蓄貯ノ趣味
出張所縣內各町

產婦人科專門
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（病室完備、入院隨時）

夏期氷價廣告

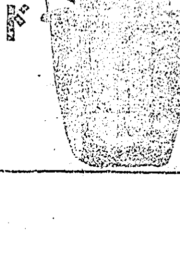
夏期中氷價左ノ通リ相定メ候間此段謹告候也

昭和十三年七月一日
福島縣製氷工業組合

平市	一貫匁ニ付	拾五錢
	三貫匁以上一貫匁ニ付	拾參錢
內郷、湯本、好間、草野、上、下小川	一貫匁ニ付	拾七錢
勿來、植田	一貫匁ニ付	拾五錢
小名濱	同	十二錢
泉	同	十五錢
四倉	同	拾五錢

◆內科・小兒科　院長　前田清美
◆外科（內臟外科、花柳病科）
◆產婦人科　副院長　幸恒忠
◆耳鼻咽喉科　副院長　兒玉秀純
X光線科
（手術室入院室完備）
前田醫院
植田町本町　電話一二四番

實用新案　第一八七四三〇號
意匠登錄　第六六一六七號
石山式
石綿ムシカマド
どんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、おすゝめ致したい新製品で御座います。



和洋鋼物
金物問屋
平市五丁目
釜屋商店

看護婦至急募集
（委細面談）
高柳醫院